守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価委員　　持　田　正　彦

１　教育委員会

平成７年教育界に激震が走ったあの痛ましい大阪の「池田小学校事件」以来，学校の安全管理・運営に厳しい目が向けられている中，守谷市では，早い段階から各校に防犯カメラを設置し，その有効な活用と維持管理に努められていて，成果も見られ，評価できる。

２　学校教育・指導室事業

国の教育行政の大きな転換期とも言うべき，先の「教育三法」の改正を踏まえた守谷市の教育目標の設定や，具現化を図るための具体的施策の設定については「いばらき教育プラン」や「守谷市総合計画」を基本線として押さえ，さらに文部科学省が示す平成２１年度からの「新学習指導要領」の移行措置の内容を踏まえた上で，５つの「守谷市学校教育プラン」が作成され，各幼・小・中学校に丁寧な説明と議論を経て周知されており，その結果，積極的で充実した取組みと成果が見られる。

３　給食センター事業

児童生徒への安全で安心な食の提供はもちろんのこと，地場産物を使った取組み，栄養のバランスの取れた食事の提供，更には，生ごみの堆肥化事業を学校教育の中にきちんと位置づけ,環境教育へと発展的に推進を図り,成果を挙げていることは評価できる。

老朽化している施設や調理器具など衛生面に配慮した改善が求められる。

４　生涯学習事業

多様な事業を展開し，いずれも大きな成果をあげ，市民の期待も高い。

近年の大きな課題でもある留守家庭児童（１～３年生児童）の保護育成を図る「児童クラブ」の運営が，大きな成果を上げており評価できる。また，対象児童の入所者増が予想される中，見通しを持った対策も考えられており，望ましい。

公民館運営等の指定管理者制度という難しい課題にも前向きに取組んでおり，その成果が期待される。

５　図書館事業

住民一人あたりの貸出し冊数が１３．０冊，一日平均の来館者数が８４３人など，図書館機能の強化・充実が図られ，市民から期待されている様子が見て取れる。

市内全校がデータベース化されたことにより，学校の図書室との連携による教育効果に更なる期待をしたい。

＜ 総括 ＞

教育委員会の全体評価について

1　確かな学力の育成では，学習意欲の喚起や言語力等の向上を目標とした「わくわく授業」の取組みや，漢字力・計算力の充実をねらった毎朝の補充学習の実践，「みんなにすすめたい一冊の本」の継続的な取組み，学習遅進児への個別指導の取組み等が意欲的に推進されており，その結果，授業が楽しいと思っている児童が９４％，授業内容がよくわかるという児童が８５％に達している学校もある。当然ながら「楽しいこと」が「わかること」につながっていてＡ中学校の「わかる授業実践」のための職員研修の充実とあわせ，小・中学校連携の姿が多くの学校で見られる。教育委員会（指導室）の指導助言が適切に出来ていると考える。また，板書を大切にした授業もすばらしく，指導室の役割が機能している。

2　豊かな心をはぐくむ教育の推進では，日課変更などで生み出されたロングの昼休みの有効活用で「遊びの時間」を教員がかかわる時間として取組んでいる学校があり，大きな拍手を送りたい。

　学校教育現場も例外なく高齢化が進んでいて，子ども達と遊ぶことが体力的に苦痛と感じている教員が増加傾向にあると聞いている。そのような中にあって，外遊びを通して教室では見せない子どもたちの人間関係や力関係，孤立している子ども，悩みを抱えている子どもの把握など，計り知れない指導資料が得られることから，多くの学校の教職員が子どもと一緒に遊ぶことが出来る「教師集団」になってほしいと期待している。

3　健康と体力をはぐくむ教育の推進では，外遊びの実施回数や，体育の時間の運動量の確保など数値目標として示し，年間を通して取組むことによって，健康の保持増進に努めている学校が多く見られ，体力テストの結果からも児童・生徒の成長が感じられる。

　一部に成果が思うようでない学校について，以下のことを助言する。

・　子どもたちの体力向上には，外遊びとともに「体育」の時間の授業づくりが大切である。体育授業づくりの三要素（１，目当てのもたせ方，２，学習過程の工夫，３，学習の場づくりの工夫・・・県体育指導資料２３～２５集参照）の再確認をしてみることをすすめたい。特に学習過程の達成型の運動領域では，スパイラル学習を，競争型の運動領域では，ステージ学習を準備することが大切であり，体育授業づくりのキーワードになっている。そのことをわかっていない先生がいた場合は，助言されるとさらに体力の向上が期待できるのではないかと考える。

4　平成２３年８月２４日の新聞各紙で文部科学省が公表した「公立学校の耐震改修状況調査」の結果を見ると，茨城県は全国平均を大きく下回り，ワースト３という状況であった。その中で，守谷市の耐震改修率は，９５．２％と本県のトップ３であり，

守谷小学校の工事をもってまもなく１００％となるとのこと。安全安心を重視した計画的な取組みは大いに評価できる。

平成２２年度の取組みから外れるが，福島県の第一原子力発電所事故問題によって，守谷市の各小学校の校庭における放射線量の高さが保護者などから心配されたが，校庭の表土を削り取る「除染作業」をスピード感をもって行ったことにより，切削前の７９．２％減になった学校もあり，大いに評価できる。